

Seven Bell Clinic セブンベルクリニック取材レポート vol.30

今日は赤ちゃんの出生時の体重と将来の生活習慣病発症の危険性における意外な関係について野村先生にお伺いしました。

Q1. 生活習慣病と言うのは、中年に広がるメタボや肥満と関係する病気の事でしょうか？

その通りです。「メタボリックシンドローム」とは内臓脂肪の過剰な蓄積とコレステロールや中性脂肪の異常、高血圧、高血糖などが複合した疾患概念です。これを放置し続けると脳卒中や心筋梗塞、糖尿病などのいわゆる生活習慣病になる危険性が格段に高まります。今では40歳以上の男性の2人に1人、女性の5人に1人が「メタボリックシンドローム」か、その予備軍であるとされています。

Q2. 日本も飽食の時代となって肥満の赤ちゃんが増え、将来的に生活習慣病にかかりやすくなったという事でしょうか？

実はその正反対です。早産、満期産を含めて2500g未満を低出生体重児と定義すると、戦後からその頻度は減少し1975年前後に最低となっていますが、その後は現在に至るまで増加して、出生児の約10%は低出生体重児となっています。その結果、日本は今、先進国の中で、低体重で出生する赤ちゃんが最も多い国の一つになっています。低出生体重児には様々な理由がありますが、特に妊娠前のやせや妊娠中の体重増加不良のように栄養状況が不十分で、2500g未満の低体重で生まれた場合、その赤ちゃんは将来、生活習慣病を発症するリスクが高くなるといった考え方があります。

では、なぜ、小さく生まれてしまった赤ちゃんはリスクが高くなってしまったのでしょうか？お腹の中の赤ちゃんは、へその緒を通してお母さんから栄養をもらって育ちますので、お母さんの栄養状態が悪いと、赤ちゃんも十分な栄養をもらう事ができなくなります。そうした環境に適応して生き延びるために、お腹の中の赤ちゃんは栄養が少ない状況で成長できる俊約型の体質になっていきます。しかしながら、子宮の中ではそれでよかったものの、生まれてからはたっぷりの粉ミルクなどを与えられ過栄養となり、その後もお腹一杯の食事を食べて高カロリーの食事を続けると、エネルギーをため込みやすい俊約型の体質ゆえに、脂肪としてエネルギーを蓄積しやすく、その結果、将来、メタボリックシンドロームをはじめとする生活習慣病にかかりやすくなってしまふ、と考えられています。この考えの発端となったのは、1986年に英国のパーカーが報告した、妊娠中の低栄養にさらされた赤ちゃんは成人病を発症するリスクが高いという「成人病胎児期発症起源説＝パーカー仮説」です。15,726名の出生体重と心筋梗塞による死亡率を調べたところ、出生体重が小さくなると共に死亡率は上昇すると言う、胎児期の栄養状態が心筋梗塞の原因の一部に成りうる事が初めて示されました。

Q3. それではこれから何に気をつければよいのでしょうか？

このように、喫煙や極端なダイエットはお母さん自身の健康に悪影響を及ぼすだけでなく、お腹の赤ちゃんに対しても、成人した後の病気を引き起こしかねない環境を生み出す前から与えてしまうわけです。ただ、胎児期にプログラミングされたからといって将来生活習慣病になると決まってしまうわけではありません。あくまで、低栄養で生まれた赤ちゃんは将来生活習慣病になり易いというだけであって、食事や運動、体重などまさにその後の「生活習慣」が生活習慣病の発症には大きな影響を及ぼすことから、大人になってからの日常管理をきちんとするよう注意されたらと受けとめてもよいかと思えます。一方で、推定体重が小さいと思われる赤ちゃんに対して、母体の喫煙や低栄養などが原因と思われた場合は、生活の改善で赤ちゃんの体重を増やす事ができる可能性はありますが、必ずしもお母さんがたくさん食べれば赤ちゃんの体重が増える訳では



ありませんし、おなかの赤ちゃんの体重を必ず増やすことができる治療や方法は、現在までのところ存在しないと考えられています。よく知られるように、妊娠中の太り過ぎは妊娠高血圧症候群(妊娠中毒症)や難産の危険性も高くなります。つまり、妊娠前から極端なダイエットは控えるべきです。妊娠してからは、体重が増え過ぎても増えなさ過ぎてもいけません。「小さく産んで大きく育てる」と言う言葉があります。超音波検査などない時代はお産自体のリスクが高かったため、母体に影響が少なく、子供は小さく産んで大きく育てるほうがいい、という意味合いであったと思いますが、「小さく産む」ことも「大きく育てる」ことも実は望ましくはないのかもしれない。



「快適で心温まる医療」をモットーとするセブンベルクリニック。笑顔で迎えたいです。
エコー健診では赤ちゃんの立体的な動きを動画で見ることが出来る最新の「4D」を設置。診察室も広いので、ゆったり先生とお話できます。
ゆったりとしたソファが配置され、明るいイメージの待合室。クラシックが流れて優雅な雰囲気です。



陣痛室と分娩室が一体化された「LDR」も3部屋完備。明るい室内は落ち着いた内装にまとめであります。
全室バス・トイレ付の完全個室型の病室も16部屋完備。当院専任シェフによるお食事にもご期待下さい。
マタニティピクニックやマタニティヨガの教室を開催するなど、産前・産後のケアにも力を入れています。

院長 ● 野村 誠二 Seiji Nomura, MD

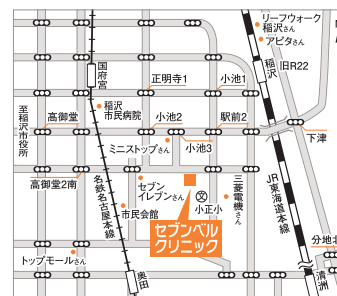
【略歴】

昭和61年 名古屋大学医学部卒業
名古屋大学大学院医学研究科修了
フランス国立衛生研究所留学
名古屋大学産婦人科准教授



【専門】

周産期、婦人科腫瘍、更年期、産婦人科内分泌
日本産婦人科学会認定専門医、母体保護指定医
日本婦人科腫瘍学会暫定指導医、日本内分泌学会専門医



スタッフ募集! (詳しくはホームページをご覧ください。)

募集職種 助産師(常勤・パート募集)
応募先 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-19-5 FLEZIO LA8F 医療法人 葵鐘会 採用担当 係
履歴書郵送または、当院HP上でエントリーください。
履歴書は面接の目的以外に使用することはありません。また許可なく第三者に開示することはありません。
※面接は福沢市内で行います。

産婦人科 TEL 0587-33-7877

産婦人科診療時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00~12:30 (受付 8:30~12:00)	○	○	○	○	○	○ ^{※1} 外 来
午後診 17:00~20:00 (受付 16:30~19:30)	○	○	○	○	○	

※当院には365日24時間必ず産婦人科医が常在しておりますので、分娩の方はもちろん、急に具合が悪くなった方は、上記時間以外でもいつでも診療致します。まずお電話にてご確認ください。
※1:女医外来があります。
※急患の方を除きまして、予約が優先になりますので、初診の方もできる限り電話で予約をお願い致します。

産科・婦人科・小児科 セブンベルクリニック

福沢市小池4丁目122番地

P 120台完備(産科70台・小児科50台)

セブンベルクリニック 福沢市 検索

http://www.sevenbells.jp/

媒体番号 1101



小児科 TEL 0587-33-7888

小児科診療時間	月	火	水	木	金	土
午前診(一般外来) 9:00~12:00 (受付 8:30~11:30)	○	○	○	○	○	○ ^{※1}
午後診(予約外来) ^{※2} 13:30~16:30 (受付 13:00~16:30)	慢性疾患 予防接種	慢性疾患 予防接種	慢性疾患 予防接種	1ヵ月健診 心児心身 外 来 乳幼児 ワクチン相談	慢性疾患 乳幼児 健診	
夕診(一般外来) 17:30~20:00 (受付 17:00~19:30)				心児心身 外 来		
	心理カウンセリング	言語聴覚療法	言語聴覚療法			

※小児科の患者様は診療時間のみ対応となりますのでご了承ください。
※1:土曜日は第1・3・5土曜日に診療を行います。第2・4土曜日は休診となります。
※2:平日午後診療は予約制です。



- セブンベルクリニック (福沢市) 【産科・婦人科・小児科】
- ローズベルクリニック (可見市) 【産科・婦人科】
- グリーンベルクリニック (豊田市) 【産科・婦人科】
- エンジェルベルクリニック (岡崎市) 【産科・婦人科・婦人科(不妊治療)・歯科】
- アルプスベルクリニック (高山市) 【産科・婦人科】
- ロイヤルベルクリニック (緑 区) 【産科・婦人科・歯科】
- フォレストベルクリニック (守山区) 【産科・婦人科・婦人科(漢方)・女性内科】
- パークベルクリニック (豊橋市) 【産科・婦人科・小児科・麻酔科】

2012年9月1日開業予定